

藤寿産業

フンデガー製特殊加工機を導入

hsbCADも導入、他社との連携強化へ

藤寿産業（福島県郡山市、藤山寿一社長）はフンデガーの特殊加工機「ロボットドライブ」を導入。今年1月から運転を開始した。幅650mm以下の部材の加工の効率化を図るとともに、これに合わせてhsbCADも導入し、フンデガーの機械を使用するメーカーとの連携強化も図っていく。



特殊加工機「ロボットドライブ」

同社では、これまで大工による手加工に頼っていた大断面集成材や湾曲集成材といった中大規模木造向けの大型部材の加工を機械化するため、2015年9月にユニチーム

製NC加工機の「ウルトラ」、18年4月に同メーカーのNC加工機「エクストラ BM3」を相次いで導入している。これにより、CLTのような幅広で分厚い材料への加工も容易になった。

一方、国内の中大規模木造向けの大型部材加工に取り組む企業の多くでフンデガーの機械が導入されている。同社では、より複雑な加工を得意とするユニチームの加工機械を選んだが、迅速な加工を得意とするフンデガーの加工機械にも以前から関心を持っていた。

今回導入したロボットドライブの最大加工サイズは厚さ300×幅650×長さ12mと、ウルトラやエクストラに比べると小さいが、加工速度は両機よりも速く多種多様な加工に対応している。また、これに合わせてhsbCADも導入した。現在、ユニチーム製の加工機械で使っているCADでも対応できるが、フンデガーの加工機械を導入している企業ではhsbCADを採用している場合が多く、他社とのネットワーク構築の観点やhsbCADの汎用性の高さ、日本市場向けのアップデートに取り組んでいることを評価して導入に踏み切った。

こうした背景に加え、同社は昨年10月の令和元年東日本台風で浸水被害を受け、加工機械にも故障が発生した。年度末に向けた受注を抱えるなか、何とか加工を進めるために、前倒しする形で同機械の導入を決めた。幸い、メーカー側に在庫があったため、迅速に設置することができた。

同社の西村義一専務は「迅速に対応してくれたフンデガーには大変感謝している。今後はウルトラ、エクストラ、ロボットドライブそれぞれの特徴を生かしながら加工対応能力を高めていきたい」と話している。